

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>九州大学農学部生物資源環境学科は、生物生産、生物機能、生物環境等に関連する学問諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく、豊かな課題探究能力とバランス感覚を備えた多様な人材の育成を目指して、教育研究活動を展開している。このような教育の目的に則り、以下の教育目標を達成した者に、学士（農学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生物・化学・物理の基礎的知識を身につけ、その応用力を修得すること。 ◆ 自然科学、特に専攻する分野に関する感性を高め、諸問題の解決能力を身につけること。 ◆ 研究者、実務者としての能力を育成し、多様な分野で活躍できる専門職業人としての基礎的能力を育むこと。 <p>特に、生物資源生産科学コース農政経済学分野では、安全な食料の安定供給とそれを担う国内外の食料産業、地域経済社会の持続的かつ環境調和的発展に資するために、国際フードシステムの社会経済問題について、社会科学総合の観点から教育・研究を行うことを目的としている。そのために、次の教育目標の達成を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 食料、農業、農村、環境の基礎知識を修得すること。 ◆ 農政経済学に特徴的な経済分析を通して、理論分析や実証分析の専門的スキルを身につけること。 ◆ 社会科学に関する問題への感受性を育むこと。 ◆ 多様な職業に適用可能な農政経済学の考え方を理解し、専門職にふさわしい能力を身につけること。 <p>具体的には、次の学修目標の達成に向けた学位プログラムを提供している。</p>
参照基準	<p>日本学術会議分野別参照基準『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準-農学分野』2015年 を参照。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h151009.pdf</p>
学修目標	A. 主体的な学び・協働

	<ul style="list-style-type: none"> • A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 • A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたるることができる。 • 農政経済のみならず、社会に深い関心を示す。 • 文章表現能力、口頭発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。 • 情報処理能力、コミュニケーション能力を涵養し、自分の考えを正しく表現できる。 <p>B. 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> • 農政経済学の基礎法則より、食料、農業、農村、環境の多様な経済現象を理解し、説明できる。 • 経済学の基礎法則より、経済現象を理解し、説明できる。 • 実証分析の方法を用いて、経済現象の定性的及び定量的性質を理解し、説明できる。 • 社会科学における様々な現象を理解し、説明できる。 • 自然科学及び生物資源生産科学の基礎知識を理解し、説明できる。 <p>C. 技能</p> <p>C-1. 専門的能力</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実証分析の方法を利用し、社会を正しく認識した上で、その結果を評価し、自分の考えを正しく表現できる。 • 数学を利用して数理分析を行い、客観的かつ分析的に思考できる。 • 社会科学の思考法を利用し、社会を多角的に分析できる。 <p>C-2. 統合・創造能力</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会を正しく認識し、問題を発見する能力を身につける。 • 情報を正確に処理し、論理的に思考する能力を身につける。 • 問題解決の方法を提示し、実行する能力を身につける。 <p>D. 実践</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会を分析的かつ総合的に思考できる。 • 社会に積極的に貢献しようという意志をもつ。 • 自分を律する高い倫理観を備える。
--	---

2. 新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、

教育課程を編成する

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（サイバーセキュリティ基礎論）、教養としての言語運用能の習得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目（専門英語）、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン、理系ディシプリン）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合、高年次基幹教育）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A）」を培う。そのうえで、学科必修科目、プログラム必修科目及び選択科目、大学院連携科目をして、以下の通り、学修目標の達成に向けた学修を進める。

農学に関する包括的基礎科目（農学入門、アグリフードシステムと農学、農場実習Ⅲなど）を通して農政経済のみならず、社会に深い関心を培う。

文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目などの基幹教育科目に加え、農学に関する基礎科目（農学入門、アグリフードシステムと農学、作物学総論Ⅰ・Ⅱ、園芸科学総論Ⅰ・Ⅱ、土壌学、農地環境工学、農場実習Ⅲ）、経済学に関する基礎科目（ミクロ経済学、政治経済学、経営学、流通論、計量経済学）などを通して、専門基礎に関する「知識・理解（B）」を培う。

経済学に関する基礎科目（ミクロ経済学、政治経済学、経営学、流通論、計量経済学）に加え、経済学を応用した農政経済学に関する科目（食料農業農村政策学、農業構造論、農業経営学、農業農村計画論、食料産業組織論、食料貿易論、食料流通経済学、食料マーケティング論、環境経済学、生物資源経済論、農業金融論）ならびに隣接する農業社会科学及び森林政策学に関する幅広い科目（農業史、農村社会学、農業法律学、森林政策学Ⅰ・Ⅱ）などの専攻教育科目を通して、経済学、農政経済学、および隣接社会科学の基礎法則より、経済現象ならびに食料、農業、環境、森林の多様な経済現象を理解し、説明できる、より進んだ専門的な「知識・理解（B）」を培う。

農政経済学の演習に関する科目（卒論演習Ⅰ、卒論演習Ⅱ）、農政経済学の研究に関する科目（卒業研究）、および隣接する森林資源環境・山村経済に関する科目（森林環境社会学、森林環境経営学、森林資源・山村経済学Ⅰ・Ⅱ）などの専攻教育科目を通して、専門に関する「技能（C）」と「実践（D）」の能力を培う。

大学院農業資源経済学専攻修士課程におけるコア科目（ミクロ経済学特論、政治経済学特論、経営学特論、計量経済学特論、ゲーム理論特論）、アドバンス科目（食料農業政策学特論、農業経営学特論、食料経済分析学特論、食料流通学特論、環境生命経済学特論）などを通して、「主体的な学び・協働（A）」、「知識・理解（B）」及び「技能（C）」に関するより高い能力を培う。

<継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）>

カリキュラムは二つの分節に区分して運用する、第1分節（1年～3年1Q2Q）は基礎的な学びの姿勢と知識・理解を修得し、専門的な知識・理解を習得する「基礎・発展期」、第2分節（3年3Q4Q～4年）は知識・理解の統合と新しい知識の創出に取り組む「統合」期と位置づける。当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを農政経済学「分野カリキュラム検討委員会（農業資源経済学講座の5つの研究分野代表教員で構成）」において検討することで、教学マネジメントを推進する。カリキュラム検討委員会にて検討した結果は、部局の「学部教育評価委員会（学務委員会委員で構成）」に提出し、査定を受ける。

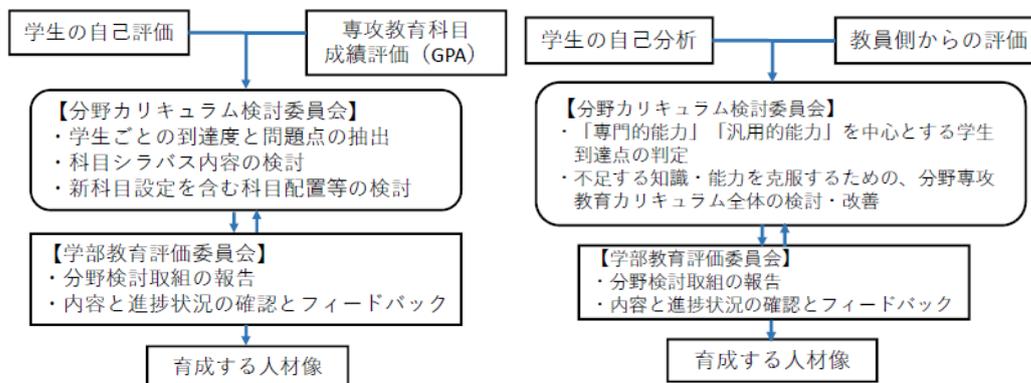
《アセスメント・プラン》

アセスメントⅠ（3年2Q終了時に実施）

別紙「アセスメント項目」の「学生による自己評価項目」結果と学生のGPAを付き合わせて、「分野カリキュラム検討委員会」において、分野教員が①学生個人毎の学修上の到達度と問題点を抽出し、②抽出した問題について、科目のシラバス内容が適切・十分であるかを検討し、新たな科目設定を含めて、科目の配置を再考する。これらの検討結果・改善取組を「学部教育評価委員会」に報告し、そのフィードバックによってカリキュラム改善を深化させる。

アセスメントⅡ（卒業研究において実施）

卒業発表会の機会を利用して、教員側からの評価項目（5項目）と学生の自己分析項目（5項目）を付き合わせ、「分野カリキュラム検討委員会」において、分野教員が①学生の到達点を判定し、とりわけディプロマ・ポリシーの「C-1. 専門的能力」および「C-2. 統合・創造能力」を中心とする学生に不足する知識・能力について抽出し、②それらを踏まえて①の問題点を克服するために分野教育に必要なカリキュラムの検討・改善を図る。これらの検討結果・改善取組を「学部教育評価委員会」に報告し、そのフィードバックによってカリキュラム改善を深化させる。



3. 新アドミッション・ポリシー

<p>求める学生像</p>	<p>国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様な視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>農学部では、生物生産、生物機能、生物環境等の学問分野において専門性及び技術を習得し、課題解決能力と国際的視野を併せ持つ人材を育成することを主眼とした教育を行っている。そのために、農学部では以下のような学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物生産、生物機能、生物環境等の農学関連分野に強い関心を有し、将来これらの分野で活躍を目指す意欲的な学生を求めている。 ・農学部の教育・研究は、自然科学から社会科学にまで及ぶ広範な基礎科学と応用科学に立脚しているので、幅広い教養と専門的知識とともに修学できるバランス感覚を備えた学生を求めている。 ・国際的に活躍する土台となる高度な語学能力を持ち、自己の語学能力の向上に熱心な学生を求めている。
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>①知識・技能：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。特に、大学での生物、化学、物理等の学習に必要な理系科目の十分な素養と基本的な英語力。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力：多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。特に物事を理論的に把握する能力。</p> <p>③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：生物生産、生物機能、生物環境等の農学関連分野への強い関心。多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する寛容性。他人の意見を尊重しつつも積極的に議論する姿勢。</p>
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>「選抜方法に関する別表」参照</p>

選抜方法に関する別表

	<p>① 知識・技能</p>	<p>② 思考力・判断力・表現力等の能力</p>	<p>③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度</p>
--	----------------	--------------------------	--------------------------------

一般選抜	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査	調査書
総合型選抜	大学入学共通テスト	小論文 個人面接	志望理由書 個人面接 調査書
国際型選抜	大学入学共通テスト 統一試験 (EJU, SAT, GC E 等)	個人面接	志望理由書 個人面接